発行：平成 24 年 5 月 23 日
川崎市総合企画局 公園緑地まちづくり調整室

生田緑地マネジメント会議準備会

生田緑地マネジメント会議準備会ニュースレター

4 vol

「生田緑地マネジメント会議」準備会での内容をお知らせします。

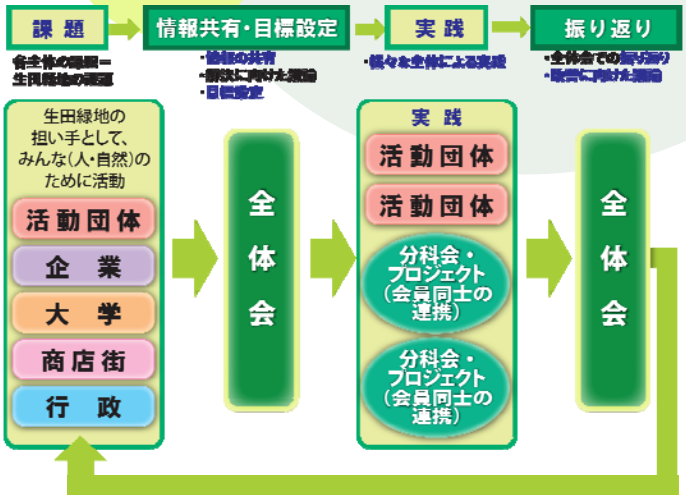
「生田緑地マネジメント会議」の設立に向けた第4回準備会が、
平成２４年3月16日（金）に開催されました。
今回は、生田緑地マネジメント会議のこれまでの経過をふまえて、
具体的な運営体制やルールづくりに向けての
意見交換が行われました。

「生田緑地マネジメント会議」のあり方について

第4回準備会では、これまでの「マネジメント会議のあり方」についての意見を踏まえ、事務局より「生田緑地マネジメント会議のあり方（サイクル）イメージ」や「マネジメント会議構成イメージ」（下図参照）等について説明がありました。このイメージ図を踏まえ、参加者の皆さまからは様々な立場や価値観から、多くの活発なご意見を頂きました。

会議の様子

「生田緑地マネジメント会議」のあり方（サイクル）イメージ



【事務局より「全体のイメージ」の説明がありました。】

- 生田緑地で行われる各種活動について、**全体会で共有**し、**実践、振り返り、改善**することにより、**個々の主体の活動**も含めて、**生田緑地全体としての取組**を成長させていく。
- 市民の財産である生田緑地に価値と魅力の向上のために、**保全と利用の調整を図りながら、みんな（人・自然）のためにサービスを提供していく。**（生田緑地の担い手）

「管理運営協議会」と「植生管理協議会」の両協議会と、「生田緑地マネジメント会議」との機能

【事務局より「マネジメント会議の機能のイメージ」の説明がありました。】

- 基本的には、**両協議会の目的をマネジメント会議が引き継ぐ**。
- 「生田緑地ビジョン」を踏まえ、マネジメント会議は**「管理運営協議会」の目的を継承**しつつ、**「植生管理協議会」の目的及び専門性を取り入れ**ながら活動していく。

管理運営協議会

【目 的】 会則より

- 市民と行政の協働による管理の推進
- 市民活動団体のネットワークによる情報の共有化
- 生田緑地の魅力を広く発信する

植生管理協議会

【目 的】 会則より

- 植生管理計画の基本理念に基づき、生田緑地の植生管理について共通認識を深める場の提供
- 市民と川崎市との協働による適切な植生管理
- 植生管理に係る実践活動・意見交換等、人材育成（市民部会）

生田緑地マネジメント会議

【生田緑地ビジョンにおける位置づけ】

- 生田緑地にかかわる多様な主体が相互に連携・調整しながら管理運営に参加する「協働のプラットフォーム」
- 生田緑地の魅力向上に向けた多様な主体の連携事業の企画、運営、調整などの推進

●●第4回「生田緑地マネジメント会議」準備会（意見交換）の概要●●

会議の様子

意見交換では、「マネジメント会議のあり方」などについて、参加者のみなさま全員に一言ずつ頂きました。皆様から頂いた主な意見をご紹介します。

準備会で出された主な意見

●会議の『エンジン』について●

・エンジンがないと会議自体をマネジメントできない。
・指定管理者がエンジンになるのか。
・公共施設であるので、実際は行政がエンジンになる方が良い。

●生田緑地に対する共通認識について●

・多くの方に見て知って頂き、共通認識を持つことが重要。自然環境を守り、保全と利用のルールを考えることが必要。
・“目標”を共有できていない。
・多摩区の集客拠点、情報の収集、情報発信の場として考えたい。
・マネジメント会議の目標は“生田緑地ビジョンの理念の実現”。
・生田緑地の目標は1つではない。多様な活用方策がある。様々な価値観で分かち合える貴重な場。
・地域（企業、大学、地域）との関わりをどのように考えていくか。
・生田緑地の来場者をどのように増やすかが課題。

●会議の位置付け・役割について●

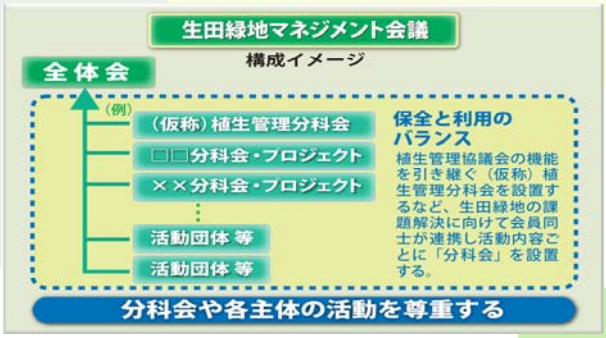
・それぞれの活動団体が共通に考える場がマネジメント会議であり、中間領域の場が必要。地域の活動を巻き込みながら、課題を共有し、知恵を出し、解決するための場。
・楽しみながらやらなければ継続活動できない。来園者が楽しいと思える場として、保全と利用が共存すべき。
・実践は外部で行うもので、活動を承認し評価して、活動を取りまとめるのがマネジメント会議。
・実戦部隊はプロジェクトチームであり、それを継続してほしい。
・植生管理協議会の議論を全体会で行うのは不可能だが、マネジメント会議に加わることが重要なこと。
・市民に対して説明責任を果たしつつ、市民ニーズをくみ取ってプロジェクト化していくことが大事。

●ルールづくりについて●

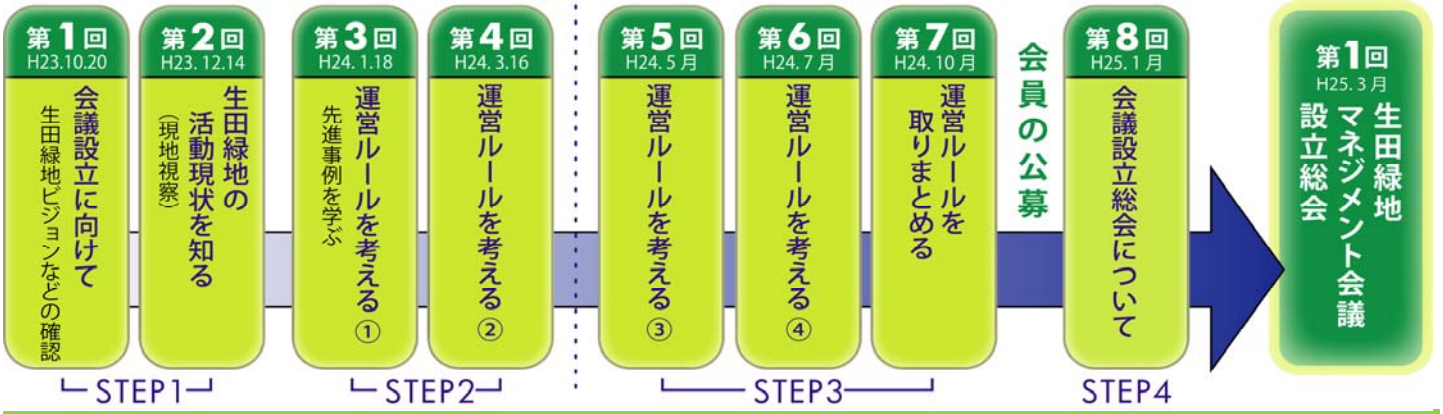
・市民の財産であり、誇れるものがある。それぞれの価値を、それぞれの価値観をもった市民が活用することが大事。色々なグループが利用できるルールづくりが必要。
・生きている生物を生かし続けるルールづくり。
・両協議会のルールをベースに、新たなメンバーの意見を踏まえて充実させていく。一体感が大切。
・マネジメント会議では大きなルール作りを行い、運営状況に応じて、ルールを更新していく。

第４回準備会のまとめ

事務局からの「マネジメント会議のあり方イメージ」等の説明の後、会議の役割や、「エンジン」の必要性、生田緑地に対する共通認識などについて、参会者全員から意見が出されました。これを参考に、引き続きルールについて検討していきます。



「生田緑地マネジメント会議」準備会では、今後は下記のような内容で会議を開催する予定です。



KAWASAKI CITY
●発行・お問い合わせ先：川崎市総合企画局 公園緑地まちづくり調整室
TEL：044-200-3632　Fax：044-200-3540